

会長講演

第13回看護実践学会学術集会

思いを紡ぎ、『今』と向き合う

野村 仁美

JCHO金沢病院 看護部長

日時 令和元年9月8日(日) 場所 金沢医科大学病院 北辰講堂

はじめに

皆さま、おはようございます。本日は、第13回看護実践学会学術集会にご参加いただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。また、この会場を提供して下さいました金沢医科大学病院さまにも、大変なご苦労をおかけしましたが、無事開催できましたことを心より感謝申し上げます。そして、このような集会長という大任を任せていただきました稻垣理事長、そして理事の皆さんに深く感謝申し上げます。運営委員一同、この1年間思いを込めて企画を練ってまいりました。今日はようやくそれが形になる日です。皆さまにとって実り多き1日になればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

本学会のテーマ

本学会のメインテーマは、「思いを叶える看護のチ・カ・ラ」です。私たち運営委員が頭を突き合わせ、思いを叶える上でキーワードとなるチ・カ・ラに「知性(ちせい)」「感性(かんせい)」「信頼(しんらい)」の一文字一文字を託しました。思いを叶える対象はもちろん患者さんであり、家族であり、そして患者さんの思いを叶えたいという私たち自身でもあります。専門職として患者さんのどう生きるかに向き合っていきたいと考えています。

そして私が今回会長講演のテーマとさせていたいたいのは「思いを紡ぎ、『今』と向き合う」です。この中で最も伝えたいことは「今」と「紡ぐ」です。私は「今しかないを見逃さない」ことが、看

護のプロにとって重要であると考えていて、どうしてもこだわりたかった言葉です。当院の看護部では、毎年新人看護職員を対象にナラティブ発表会を行っています。その時に、「看取り時に感じた寂しさを通して、普段の何気ない患者さんとの関りは、かけがえのないもので、当たり前のことではないと感じた」と話す新人看護職員がいました。「かけがえのない」というのは、本当にその通りだと思います。そういう真っすぐな思いは、これからも持ち続けてほしいし、このまま育ってほしいとつくづく思いました。

そして「紡ぐ」です。だからといって、今私たちがやりたいこと、やったほうがいいと思うことをやるのは独りよがりです。紡ぐという言葉は、辞典等を調べると、綿や繭から纖維を引き出し、撚り合わせて糸にすることとなっています。患者さん、家族、そして看護師、多職種が糸のように思いを撚り合わせ、強い一本の糸になれたらしいなど常々考えています。

ちなみに当院の糖尿病患者会は「紡ぎの会」と言います。これは管理栄養士の提案によるもので、その意味をしっかりと吟味し、その意味を理解したときに、これしかないとと思いました。今も紡ぎの会は、精力的に活動してくれています。

看護師とは

そして、ここで皆さんに問いかけたいのは、「看護師とは」ということです。保助看法の5条で「傷病者もしくはじょく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者」と謳われて

います。昨今は、特定行為をメインに診療の補助にスポットライトが当たりがちですが、私は療養上の世話に看護の醍醐味を感じています。看護師は、自身の判断で療養上の世話を実施できる療養支援の専門家なのです。

先日、新潟県で「第23回日本看護管理学会学術集会」がありました。そのインフォメーションエクスチェンジ46「ケア時代の管理とは」で発表されていた内容を引用させていただきます。サブテーマは「人間性と効率性の対立を乗り越えるための方法論の探求」です。人間性と効率性の対立というところにすごく興味がわき、参加させていただきました。そこで「看護することとは」について「人が元来持っているセルフケアの力が發揮できるよう気遣い、そして世話をすること」と定義されていました。その中に、看護モデルとして昆布が用いられていました。ワカメではなくて昆布です。昆布は根っこが岩にがっつりと付いています。その部分が看護の意識であり、意識の中には専門的意識・当事者意識・ケア意識、そして愛着が含まれます。昆布自体は看護の行為であり、流れに応じた柔軟で創造的・自律的・自発的行為といったものが含まれます。ぶれないと看護の意識、柔軟性のある看護の行為、このモデルにはすごく共感できましたし、心を動かされました。

私は、先ほどの紹介もありましたが、修士で看護管理学分野を学び、清潔援助をメインに研究に取り組みました。そのきっかけは、看護師が安易に清潔援助を介護職種に委譲しているのではないか、ケアがルーチン化され個別に合っていないのではないかという声を耳にしたことになります。そんな中、私がインタビューした方のうち、お一人は慢性期病院の方で、「急性期の患者さんの場合、『良くなったら、お風呂に入ろうね』と言えますが、回復が見込めない患者さんの場合、今を逃したら一生お風呂に入れないんです。」という思いのもと、リスクを抱えながらも卓越した技術のもとで患者さんの楽しみを支えておいでました。また、お風呂好きの患者さんの死期を見極め、「○○さん、今日でお風呂最後かもしけん」と援助者間で共有し、疲労などに考慮しつつ、日々の入浴介助とは異なる癒しの時間を作り上げている看護師さんに出会いました。患者さんに対して、この人のこのケアだけは譲れないという患者さんへの思い入れであったり、援助方法への思い入れといったものが感じられ、とても感銘を受けました。

忘れられない清潔援助の事例

そこで私も、清潔援助にまつわる忘れられない事例をお伝えしたいと思います。若かりし頃なので、昭和の終わりか平成の初めくらいの古き良き時代の話です。Aさん、70代の男性、神経難病で気管切開が施され人工呼吸器を装着された方でした。奥様が毎日面会に来られ、一心同体のようなご夫婦でした。Aさんと看護師の間を取り持ってくれるのが奥様で、Aさんの気持ちを推し量って対応してくださいました。若くて経験不足だった私は、反対にお二人に力をいただいていたのではないかと思います。でも、それに対して自分は何を返せているのだろうか。曜日ごとに割り振られたルーチンワークの清潔ケア、Aさんの目に映るのは変わらない風景の繰り返しであることが気になっていました。自分に何かできることはないかと考えていたある日のこと、「Aさん、お風呂に入れたらいいね。」の一言が口をついて出ました。奥様も「入れたらうれしいね。ね、お父さん。」という話になり、シンキングタイムが始まりました。「家に子供用のプールあるし、持つてこようか。」という奥様、「そうですね。」と答える私。あり得ない話ですよね。長期にわたって臥床状態の神経難病の方です。子供用プールで対応できるわけがありません。そこで、Aさんを囲んで、奥様と一緒に作戦の練り直しです。もちろんこれらのことについては上司の許可を得て、「Aさんにご満足いただけたらいいね。」という話の中で進めました。そしてAさんを置いてきぼりにすることなく、ベッドサイドで奥様と一緒に色々な方法について考えました。一番避けなければならないことはAさんに不利益が生じることです。ああでもない、こうでもないと共有した時間は、かけがえのないものでした。

Aさんはずっと清拭だったので、お湯の感触を味わってほしい、そしてこのケアが奥様にとって心に残るものであってほしいと思ったときに、ベッドサイドで行える床上でのシャワー浴がベストではないかと考えました。床上となると、気管切開をされているので、お湯がその部分に流れないようガードの仕方、ギャッジアップの程度、そして寝具としてどれだけのものが必要になるかといった打ち合わせ。また、お湯を一番吸うのはマットレスパッドなので、それを収めるには特大のバケツが必要になる、それがお湯を吸うとどれくらいの重さになるのか、それを引き抜いた時のバケツの位置等についてシミュレーションを行いました。

た。その結果、Aさんは何ら不利益を生じることなく清潔援助を終えることができました。奥様も喜ばれ、ケア中は病室に笑い声が響き、とても印象的な場面として私の心に残っています。

それができたのは、古き良き時代だったからでしょうか？いえ、時は流れても先ほどの昆布モデルではありませんが、看護の意識は変わらないと思います。つい最近の話ですが、看護管理セミナーの案内で、「社会構造の大きな変化に伴い、医療安全重視、診療報酬偏重のために、様々な記録等に時間を取られ、看護師がベッドサイドに行く時間が減っている。看護師自身のモチベーションも低下し、看護の危機を迎えている」という見出しを目りました。大きなお世話だと思う反面、自分の中に否めない部分もありました。時に、患者さんも看護師自身もがんじがらめになっているのではないかと感じこともあります。自由に、やりたい看護、それはもちろん患者さん本位の話ですが、それをできるようにするのが管理者の使命だと思っています。

まとめ

看護は「びん詰め」であれ。若い頃、そう上司に教えられました。びんは中身が見えます。看護をしたことが看護になっていたかどうか、看護の中身が見えるようにしなさいと言われたことを今でも忘れません。例えば、何年か前の話ですが、「寄り添う」という言葉が流行し、ケーススタディや事例研究等によく使われた時がありました。だけどプロセスレコードを見ると、これは物理的に患者さんの横にいただけ？と思う内容のものもありました。言葉が独り歩きするのではなく、患者さんに寄り添うということはどういうことなのかを突き詰めて考えてほしいと本人に返した記憶があります。

本学術集会ではテーマである「思いを叶える看護のチ・カ・ラ」、「知性（ちせい）」「感性（かんせい）」「信頼（しんらい）」を踏まえ、求められる看護の姿について意見交換していきたいと思います。皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。